

2019年8月1日

昨年約 19 万人が利用した「ゲリラ雷雨アラーム」、スマホアプリで登録開始 “ゲリラ豪雨”発生を平均 59 分前にアプリ PUSH 通知でお知らせ ～AI 技術で予測精度向上！局地的な雨雲の動きを 250m メッシュ/3 時間先まで詳細表示～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉県美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、“ゲリラ豪雨”による被害を軽減するため、スマホアプリ「ウェザーニュース」にて、「ゲリラ雷雨アラーム」の登録と、「ゲリラ雷雨防衛隊」の募集を開始しました。「ゲリラ雷雨アラーム」は、ユーザーの現在地でゲリラ豪雨発生の危険性がある場合に、事前に PUSH 通知でお知らせするサービスです。これまでの実績で、予測困難なゲリラ豪雨を 90%予測し、全国平均で 59 分前に通知することができています。今夏のゲリラ豪雨の発生回数は昨年並の予想ですが、8 月上旬～中旬に全体の約 8 割が集中的に発生するとみています。花火大会の開催ピークやお盆休みにあたり、お出かけや帰省への影響が心配されます。ゲリラ豪雨への対策としてぜひご活用ください。

「ゲリラ雷雨防衛隊」は、6.2 万人(2018 年実績)の隊員による現地からの怪しい雲や風などの報告と観測データとを組み合わせることによって、従来の技術では予測が困難とされるゲリラ豪雨の発生を予測し、いち早く共有・周知する取り組みです。ウェザーニュースは、隊員と協力して、今年も局地的かつ突発的な激しい雨や落雷による被害を最小限に抑えられるよう努めてまいります。

✓ポイント

- ・ゲリラ豪雨発生を全国平均 59 分前（過去実績）にお知らせ！予測困難なゲリラ豪雨を 90%予測
- ・AI 技術で予報精度向上！業界初の 250m メッシュ/3 時間先までの雨雲レーダーをアプリで提供
- ・予測困難を可能に！全国の仲間と空を監視する「ゲリラ雷雨防衛隊」活動中

本プレスリリースの素材のダウンロード	“ゲリラ雷雨アラーム”の登録はこちら	参考:今夏のゲリラ豪雨傾向
ウェブ版プレスリリース 「ゲリラ雷雨アラーム登録開始」 https://jp.weathernews.com/news/28221/	スマホアプリ「ウェザーニュース」 をダウンロード後、 「ゲリラ雷雨 Ch.」にアクセス	ウェブ版プレスリリース 「ゲリラ豪雨傾向 2019」 https://jp.weathernews.com/news/28123/

◆“ゲリラ豪雨”発生を 90%予測！平均 59 分前に PUSH 通知でお知らせ

「ゲリラ雷雨アラーム」は、2018 年に 19.1 万人(※)の方が利用した人気のコンテンツで、ユーザーの現在地でゲリラ豪雨発生の危険性が高まった際に、PUSH 通知が届くサービスです。これまでの実績で、全国平均で 59 分前にゲリラ豪雨発生の危険を通知し、90%予測することができています。

通知画面を開くと、ゲリラ豪雨の発生“危険エリア”“注意エリア”をひと目で確認することができます。激しい雨や落雷をもたらすゲリラ豪雨発生前の避難や対策にお役立てください。



「ゲリラ雷雨アラーム」サンプル ゲリラ豪雨の危険エリアがひと目でわかる

なお、「ゲリラ雷雨アラーム」は、スマホアプリ「ウェザーニュース」の「ゲリラ雷雨 Ch.」、もしくはメニュー内の「お天気アラーム」からご登録いただけます。

◆AI 技術で予測精度向上！局地的な雨雲の動きを 250m メッシュ/3 時間先まで詳細表示

ゲリラ豪雨は局地的かつ突発的に発生し、予測が困難とされていますが、花火大会などの屋外イベントや交通機関への影響、時に人命にも関わるなど、社会的な影響が大きく、より正確な予測や詳細な情報が求められています。

ウェザーニュースでは、独自の AI 技術を活用した、降水分布を高解像度で解析・予測する、短時間予報解析モデルを開発し、スマホアプリ「ウェザーニュース」の「雨雲レーダー」に導入しています。雨雲レーダーでは 250m メッシュの高解像度な降水分布を、3 時間先まで 10 分間隔で確認することができます(※)。一般的な雨雲レーダーよりも細かく雨雲の動きを予測し、表示できるため、ゲリラ豪雨のような局地的な雨の強さや継続時間などを詳細に確認することができます。

※参考:業界初！超高解像度な新雨雲レーダー

<https://jp.weathernews.com/news/23532/>



「雨雲レーダー」:「現在」から 1 時間後の降水分布予測
従来(左図)は、35 分以降は 1km メッシュとなるが、新しい雨雲レーダー(右図)は 3 時間後まで 250m メッシュのまま

◆予測困難を可能に！全国の仲間と空を監視する「ゲリラ雷雨防衛隊」活動中

今夏も「ゲリラ雷雨防衛隊」を発足し、ゲリラ豪雨の前兆を捉える“防衛隊員”を募集します。「ゲリラ雷雨防衛隊」は、2008 年神戸市での都賀川水難事故を契機に“ゲリラ豪雨による被害を少しでも減らしたい”という想いで同年の夏に始動した企画で、2019 年で 12 年目を迎えます。

防衛隊の活動は、隊員から寄せられる怪しい雲の報告レポートを元に、ゲリラ豪雨の前兆をいち早く捉え、予報に活かすというもので、具体的には以下のステップがあります。

- (1) ゲリラ豪雨の可能性のあるエリアの隊員に、防衛隊本部から雲の監視を依頼する“指令”を出します。
- (2) “指令”を受けた隊員は雲を監視し、怪しい雲のレポートを送ります。
- (3) 本部にて隊員から届く雲のレポートを分析し、レーダーや衛星画像など各種気象観測データおよび独自アルゴリズムなどを組み合わせて解析します。
- (4) 本部がゲリラ豪雨発生の可能性が高まったと判断した場合は、「ゲリラ雷雨アラーム」登録者に対してゲリラ豪雨発生を事前にお知らせします。



現在の予測技術では、ゲリラ豪雨を「今日は昼頃に東京多摩地方で発生する可能性が高い」と大まかに予測することは可能ですが、「あと1時間以内に東京都新宿区で発生する」と5～10キロ単位で予測するためには、局地的に急発達する雲の様子をリアルタイムかつ詳細に把握する必要があります。隊員の報告は、まだ雨雲レーダーに映らない段階から雲を捉えることができるため、ゲリラ豪雨予想に非常に有効な手だてなのです。

ウエザーニュースは、今年も隊員と力を合わせて、従来の技術では予測が困難とされているゲリラ豪雨の予報に挑戦し、「ゲリラ雷雨アラーム」を通じて、被害を最小限に抑えられるよう努めてまいります。

※“ゲリラ豪雨”発生のカウント方法

スマホアプリ「ウエザーニュース」の全国ユーザーから届く降雨報告において、“ザーザー”（5段階中の2番目）以上の強い雨が報告され、かつ、過去1時間に雨の報告が2割以下の場合を“ゲリラ豪雨”とし、10km四方ごとにカウントしています。

